

銀行名	宮崎銀行
タイトル	「特定調停スキーム」活用による私的整理、及び「経営者保証ガイドライン」を活用して経営者保証を解除した事例
取組み内容	<p>1．取組経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元建設会社。高い技術力を持ち大手ゼネコンの下請け中心に業容を拡大するも、新規事業投資の失敗や収益管理体制の甘さから資金繰り悪化。元請中心に転換して収益改善図るも、競合関係となった大手ゼネコンからの下請受注減から更に業況悪化。 <p>2．取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・RCC 関与で県外のスポンサー支援により再生図るも、スポンサーの支援未履行により再生計画ブレイク。 ・RCC スキームブレイク後、中小企業再生支援協議会への持込み実施。 ・当社と RCC スキームのスポンサー会社との問題に対し支援協と連携して会社分割スキームでの解決に努めるも、解決できず支援協スキームも破綻。 ・民事再生等法的破綻も予想される中、当社弁護士により各行宛「特定調停スキーム」提示。新スポンサーによる再生計画書提示あり、最終的に全行同意にて裁判所での特定調停成立。 <p>3．取組成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私的整理で決着できたことで当社の信用毀損を免れ、高い技術力を持つ地元建設業の再生と優秀な技術者の流失を防衛でき、地域経済活性化に資する取組みとなった。 ・再生支援協議会関与により、経営者保証ガイドラインに基づき、表明保証を徴求して保証人を解除。

銀行名	宮崎銀行
タイトル	投資事業組合を活用したお取引先の成長支援
取組み内容	<p>【概要】 農林漁業のお取引先の6次産業化を支援するため「みやぎん6次産業化支援ファンド（みやぎん6次産業化投資事業有限責任組合）」を出資総額1,000百万円にて組成。 平成27年1月、6次産業化に取り組む株式会社岡崎牧場に対し、約46百万円を出資し、資金面の支援と一体的に経営支援を実施中。</p> <p>【具体的内容】 株式会社岡崎牧場は宮崎県内3つの牧場で黒毛和牛を肥育しており、また自ら肥育した牛の肉を使用して焼肉店とステーキハウスを展開している。 今般、自社生産牛肉の付加価値を更に高めて販売していくため、「生食用牛肉（1）」と「ドライエイジングビーフ（2）」を製造・販売していく事業に着手。設備資金を「みやぎん6次産業化支援ファンド」にて支援したほか、ビジネスマッチングにより販路開拓をサポートするなど経営支援を行っている。当行の紹介により居酒屋チェーンや食肉卸との商談に結び付いた。</p> <p>（1）生食用牛肉...牛肉ユッケや牛サシなど （2）ドライエイジングビーフ...乾燥熟成肉。ブロック肉を冷蔵庫で40日程度熟成させるとタンパク質がアミノ酸に変わり旨味が増幅する。</p>